

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を踏まえ、事業所独自の理念が作られている。職員一人ひとりが事業所の理念を理解し、日々のケアで実現できるように取り組んでいる。	事業所独自の理念を職員が主体となって策定し、またその内容は毎年見直されています。日常のサービスにその理念が生かされるよう、定期的に職員全員で話し合われています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や防災訓練に参加している。事業所の広報誌を地域で回覧して頂いている。	町内会にも加入し、参加できる行事には積極的に参加しています。また、保育園の慰問等を積極的に受け入れており、ご利用者・訪問者双方楽しく過ごされています。広報誌の回覧も頻度が上がってきています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で取り組み状況について報告し、認知症の人を理解してもらえよう働きかけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況や運営状況について報告、意見交換を行い、サービスに反映している。	前回の運営推進会議での検討事項や課題についての経過報告や話し合いが行なわれており、今後、評価結果や評価で明らかになった課題も検討する予定ですが、開催頻度が低く、十分に機能しているとは言えません。	現在複合施設合同での開催となっており、日程等の調整のため開催頻度が低くなっています。運営推進会議は事業所毎で行う等、開催頻度を上げることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では市の担当者から出席して頂き、事業者の実情やサービスの取り組みについて報告市、意見を頂いている。	市の担当者から運営推進会議へ出席してもらっている他、定期的に連絡を取るようしており、積極的に相談が行われ、市からもよく対応してもらっています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を開き、どのような行為が身体拘束にあたるのか、職員の意識の統一を図っている。玄関の施錠はしおらず、徘徊する入居者には付き添っている。	一年に一回研修が行われています。職員同士気づきがあればその都度話し合いが持たれ、注意すべき点があればマニュアルも追加・修正していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に出席した職員が職員会議等の場で、他の職員に伝えている。不適切なケアが発見された段階で報告し、確認を行っている。	職員会議で研修が行われている他、苦情報告書や日常で気づいた点があれば随時全職員に徹底されています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の入居者が成年後見制度を利用されており、制度についての理解はある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事業所の方針や対応可能な範囲、ご家族に協力をお願いしたい事について説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者、家族の代表者が出席し、意見交換を行っている。また、面会時に相談しやすい雰囲気作りに努め、意見は会議の場で話し合い、サービスに反映している。	苦情報告書や、ご家族との面会時にご家族からの要望等があれば職員会議で話し合わせ、管理者会議の場で運営者に報告され改善されています。	ホーム内に運営に関する意見箱等、ご利用者やご家族が匿名で意見を出せる場が無いため、設置の検討を期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや職員会議、また年に2回程度の個人面談を実施して職員の意見や悩みを聞く機会を設けている。また、管理者会議においては職員の意見を運営者に報告している。	日々発生する改善事項や問題点はほぼ全て職員からの意見や話し合いにおいて改善されており、運営に関するものも管理者会議の場で運営者に報告され改善されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意欲をもって働けるよう、職員に各利用者の担当制を設けたり、人事考課制度を活用している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人1回は必ず外部研修に主席する機軸を設けている。また、法人全体としての研修会にも多くの職員が参加できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホーム4施設での管理者会議を定期的に開催し、意見交換を実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の生活状況を把握し、本人、家族の希望を聞いている。本人の不安を取り除くよう話を傾聴している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯や、ご家族の苦労について十分話を聞くように努めている。要望に対して事業所としてどこまで対応できるか説明している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、本人、家族の要望を聞き、プランに取り入れている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑や調理など日常のことを一緒に行い、共に生活する関係作りを努めている。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を交えて行事を行っている。また、本人の日頃の状態や変化をこまめに報告、相談している。広報誌を発行し、情報の共有を図っている。	面会時や医療機関受診時等に状況の説明や相談が行われています。急ぎの場合はお互いに電話で連絡を取り合い、必要に応じて相談の場が設けられています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人からの面会があり、交流を図っている。また、馴染みの美容院や飲食店を利用している。	外食時や散髪の際は本人の希望する馴染みの店に行ったり、誕生会にはご利用者の希望する店に行き外食したり、買い物したり、会いたい人に会ったりしています。また、担当職員はご利用者の好みに合わせて配置されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、すべての職員が共有し、適切な声かけを行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られる時は、今までの生活状況、サービスの内容や留意事項等、情報提供を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけし、把握に努めている。言葉で表せない方は、表情や行動から意向をくみ取るよう努めている。	職員は全員が理念に基づき、日々の会話や行動、表情などから意向を汲み取っています。また、ご本人やご家族からも入居前の嗜好や気持ちを伺い、日々のケアに活かされています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりと会話の中で今までの生活環境を聞き、理解に努めている。また、家族から今までの生活を聞き取っている。	ご本人やご家族からだけでなく、面会に来た知人などからも許可を得て聞き取りを行い、新しい情報はモニタリングシートに記録しています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや状態の把握に努めている。さまざまな活動を通して、できる事を把握し、職員で情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ケアプラン会議を開き、状態の確認や課題について話し合いを行い、介護計画に反映している。	毎月一回のモニタリングを基に職員全員で毎月ケアプラン会議を開き、介護計画について話し合われています。状態の変化等、必要であればご家族と相談して介護計画を見直し、修正しています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、生活記録に記載して職員間で情報を共有している。また、介護計画について評価を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、臨機応変に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員や地域の方に参加して頂き、地域資源の把握に努めている。また、訪問理容を活用し、地域での暮らしを継続できるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診している。緊急時や必要時、受診に付き添い、普段の様子を伝えている。	原則入居前のかかりつけ医となっていますが、緊急時やご本人・ご家族の意向により協力医療機関と連携し、対応する仕組みづくりが出来ています。またかかりつけ医とは連絡が密に行われ、必要な時には職員や看護師も同行しています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な体調の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでおり、何かあれば看護師に相談できる体制ができている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今のところ入院した経緯はないが、その際は普段の生活状況を提供し、家族、医療機関と連携していきたい。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、看取りについて施設で出来る範囲について説明し、理解を得ている。	契約時に看取りについて同意を得ている他、状況が変化した場合や容態の悪化した場合にはその都度ご家族と相談し、理解を得ていく方針です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急手当てや初期対応の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。	緊急時や救急時の訓練は定期的に行われ、併設施設には看護師もいて対応可能ですが、全ての職員が対応できるように研修しています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を定期的に行っている。地域の防災訓練に参加している。	施設合同の訓練は年二回以上行われており、消防署にも参加してもらっています。避難経路や非常時の飲料水、食料も準備されており、消費期限等の管理も行われています。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても、人として尊重した言葉かけを心がけている。不適切な対応があれば、職員で意見交換し、周知徹底を図っている。	理念に基づいた声かけ、言葉かけが行われています。職員とご利用者は一緒になって笑い、生活を楽しんでいます。ご利用者に失敗があった場合でも、周囲に分からないように対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表せる方には意向を確認し、意思表示が困難な方には、行動や表情から汲み取るよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちやできる事を尊重して、個々に支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示ができる方には、自分で服装を選んで頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや希望を取り入れながら、メニューを作成し、一緒に調理、片付けを行っている。食事は職員も一緒に食事を囲み、会話しながら食事をしている。	毎日一週間先の献立をご利用者と相談しながら好みに応じて作成しています。また菜園で採れた野菜や、季節感を出した食材を用い、食事が楽しくなるよう工夫されています。また外食も頻繁に行なわれ、お弁当を持つためのピクニックも行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体重の増減を確認し、調整しながらバランスの良い食事などを支援している。毎月、栄養士にアドバイスを受けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアの声かけ、見守りを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	すべての入居者が尿意、便意があるが、できるだけ失敗しないよう、その人にとって必要な支援を行っている。	本人申告が無い時でも排泄を促すなど、できるだけおむつは使用しないように心がけ、排泄の自立を支援しています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、水分と野菜の多い食事を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認し、入浴して頂いている。拒否する方々にはタイミングを見計らって、誘導するようにしている。	原則毎日入浴となっており、ご本人の希望に応じた時間帯で入浴しています。複合施設のため、ご利用者の状態に応じた複数の浴室が使用でき、ご利用者の身体的負担が軽減されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムができるよう努めているが、個々の入居者のその時々体調に応じて、休息できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々の薬入れに保管し、内容を把握できるようにしている。服薬時はきちんと服用できているかを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作り・台所仕事や掃除、洗濯も一緒にして頂き、入居者の能力が発揮できるよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が買い物に出かける時には、意思を確認して同行して頂いている。周辺に散歩に出かけたり、自宅や買い物など、入居者が行きたい場所への支援を行っている。	天候がよければご利用者の希望により日常的に散歩やドライブに出かけています。また火・木・土曜日は食材の買い物に出かけることになっており、希望するご利用者が順番に出かけられるようになっていきます。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	玄関にある自動販売機で好きな飲み物を買ったりして、自分でお金の管理ができる方にはして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては家族の了解が得られていないため、本人自らは電話していない。手紙に関しては今後、書中見舞い、年賀状等、支援していきたい。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者がし移動やすいよう、家具の配置や食席に注意し、季節の花を飾ったりしている。	施設内は清潔に保たれ、リビング、浴室、トイレも広く作られ快適に過ごせています。またリビングには花やご利用者が作った季節感のある掲示物が飾られていて、四季の変化が感じられます。通路に荷物等は置かれておらず、ご利用者はスムーズに移動できています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファーや和室のこたつでくつろげるスペースがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が持ち込まれる荷物を使いやすいよう配置し、写真や手芸品などを飾ったりしている。	現在、全ての居室がフローリングの洋室となっていますが、希望により布団にも対応しています。またベッドや家具は全て入居者の持ち込みとなっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのわかる力を見極め、必要に応じてトイレに札を掛けたり、居室に目印をつけたりしている。		